

EurekaIX

六年制通信 No.2 令和3年4月16日(金)号

論理は感情に打ち勝つ

始業式でも言いましたが「才能を持った人間はそれを正しく行使する使命がある」というのは本当だと思っています。これは「白い巨塔」というドラマで主人公が遺言の中で述べた言葉です。これに加えて私は「教育を受けた人間にはそれにふさわしい言動がある」と考えています。私たちは受けた教育を体現し、それに則って生きていかななくてはならないのです。人が人として生きる、それには教育が欠かせないのですね。教育は人を理性的にします。理性とは何か。いつもの『新明解国語辞典』によれば「感情に動かされたりしないで、論理的に考えをまとめたり物事を判断したりする頭の働き」のことです。理性の反対概念は感情です。理性的な人の反対は感情的な人というわけですから、感情的な人が教育を受けることによって理性的な人になるのです。理性を英語で **reason** と言います。私たちはこの単語を、学習の早い段階で「理由」という意味だと習いますが、本来は「理性」の方を先に教えるべきですね。英語には **Man is endowed with reason.** (人間は理性を付与されている (1年生の諸君は英文の発音を英語の先生に教えてもらいなさい)) という言葉があるのですが、なるほど、人と動物を分けるものが理性だというわけですね。

理性とは論理的思考ができ、それに従って物事を理解していくことであり、感情とはつまり好き嫌いのことですから、感情的な人間というのは物事を好きか嫌いかで解釈する人のことでしょう。君たちは同じ制服を着て同じ学び舎で切磋琢磨する仲間なのですから (友だちというより仲間の方がしっくりきますね)、好きな人が困っていたら助けるけど、嫌いな人には手を差し伸べない、それではいけないわけで、好き嫌いを越えて助け合わなくてははいけません。それが理性というものです。

人間の弱さはこの好悪の感情をなかなか克服できないところにあります。「坊主憎けりや袈裟まで憎い」と言いますが、好き嫌いは思わぬところに飛び火して、自分の手の届く範囲を越え、どこかで誰かを傷つけてしまうかもしれません。たとえ心の中に好悪の感情を持ってしまうとしても、それを言動に出さなければいいんです。どんなときにも誰に対しても優しさを纏って接することは非常に難しいことですが、できるようになろうとして生きよう、まずそう考えることが大切ですよね。

論理は感情に打ち勝つということを考えるとき、ちょっと違うのですが、いつも頭をよぎる問題があるので紹介します。以前この通信で書いたかもしれませんが…。

「モンティ・ホール問題」と呼ばれるもので、論理的には理解できるのですが私の感情というか感覚がそれを拒否するのですね。

A,B,C の三つの部屋がある。どれか一つには賞金が入っている。あとの二つには何も入っていない。仮に君が A の部屋を選んだとする。ここで、当然、BC のいずれか一つには何も入っていないことは理解できるはず。その何も入っていない方の扉を司会者が開ける。仮に B を開けたとしよう。そうすると賞金は A か C のどれかに入っていることが分かる。君は今 A を選んでいるのだが、さて、ここで司会者が今なら C に変更することができるという。君は A のままにするか C に変えるか。A か C のどちらに賞金があるのか、確率は同じなのだから変更して外れたら後悔すると思って A のままで行くという人もいるだろうし、何となく気分が変わって C にする人もいるだろう。しかし、感覚的には、A でも C でも賞金が手に入る確率に変わりはないと思いますよね。もともと ABC の三つの中の一つが正解なのだから 3 分の 1 の確率、およそ 33.3% だと。ところがこの場合、変更する方が賞金を手にする確率が 66.6%、つまり A に固執した場合の倍に跳ね上がるということです。ここ、私の感覚が拒否するところです。C に変えても A のままだと確率は同じではないのか…。

論理的に考えてみます。C に賞金があるとしましょう。

パターン①：君は A を選んだ。司会者は B を開ける。そして君は C に変える。賞金が手に入る。

パターン②：君は B を選んだ。司会者は A を開ける。君は C に変更する。賞金が手に入る。

パターン③：君は C を選んだ。司会者は A を開ける。君は B に変更する。賞金は手に入らない。

以上の 3 通りを考えると、変更した方が賞金の手に入る確率が 3 分の 1 から 3 分の 2 に上がることが分かります。また、そもそも A を選んだ場合、A に賞金がある確率は 3 分の 1、33.3% だが、賞金が BC にある確率は 3 分の 2、66.6% である。司会者が BC のいずれかを開けたとしてもこの確率は変わらないと考えれば、BC のいずれかに変更した方がいいことが納得できる。君たちの論理と感覚は一致しましたか？

今週のおすすめ

・奥田英朗 『コロナと潜水服』 (光文社)

五つの短編集です。不思議な味つけがされていて、どれも面白く読みました。

今回の作品集の中では「パンダに乗って」が一番好きだな、私は。この車は君たちは見たことがないかもしれない。フィアット・パンダというイタリア車で、日本ではマイナーとはいえ一時は凄い人気でした。しかしもう見なくなりましたね。私はこの 10 年で 1 台見たかなあ。東京在住の主人公がパンダ（もちろん中古）を購入しますが、それは新潟の中古車店。喜んで乗って帰ろうというわけでナビを活用するのですが、全然違うところへ案内されます。どうやらパンダが意思をもって前の持ち主の知り合いのところへ誘導されているようだ気づいた主人公は前の持ち主の友人になりすまして旅を続けます。メルヘンと言えはそれまでですが、それに、こんなことが絶対にないことも理解できるのですが、あっても不思議ではない気になりました。

BGM は 青い三角定規 の 太陽がくれた季節 でした…。